

## 補足. 大雪山の登山環境

### 《自然条件》

#### ● 気象条件が厳しく、残雪期間が長い

気象条件は極めて厳しく、本州の3000m級の山岳環境に匹敵します。標高1893mの黒岳石室では、2013年8月（最暖月）の最低気温が2.4℃、最高気温が15.4℃でした。（平成25年度大雪山国立公園整備計画策定等基礎調査業務報告書より）

残雪期間が長く、7月中旬でも登山道の一部は雪渓で覆われています。融雪期には登山道に融雪水が流れ込み、登山者の踏圧による荒廃が進行します。また登山者が雪渓を避けるため周辺の雪田群落に踏み込み、植生が損傷した箇所も見られます。



雪渓に覆われた裏旭の登山道

#### ● 稜線は脆弱な高山植生帯

比較的平坦な地形が広がる稜線は、脆弱な高山帯となっています。吹きさらしの稜線には、「構造土」と呼ばれる特殊な地形が見られます。ルート不明瞭な箇所も多く、広範な区間で構造土や植生に損傷が生じています。



「構造土」が広がる高根ヶ原

#### ● 巨礫帯はルート不明瞭

火山噴火によって形成された巨礫帯は歩きにくく、ルートが不明瞭です。悪天候時には道を見失いやすいので注意が必要です。



巨礫で覆われたロックガーデン付近

#### ● 脆弱な地質

大雪山の稜線の多くが、火砕堆積物で覆われた侵食を受けやすい地質です。雨水や融雪水は表面を流れず地下に浸透します。土中が凍結している時には、凍土面を浸透水が流れるため、土中の土砂が流出し、空洞化する現象が生じます。



脆弱な地質

## 《利用状況》

### ●融雪期に登山者が集中

一般的な登山シーズンは6月下旬～10月上旬です。高山植物の開花期と紅葉期に登山者が集中します。避難小屋や野営指定地の周辺は、特に利用が集中するため、登山道や植生へのダメージが深刻です。



利用ピーク時の白雲岳野営指定地

### ●稜線にトイレが少ない

大雪山の稜線にトイレは少なく、避難小屋（黒岳石室、白雲岳、忠別岳南、ヒサゴ沼、上ホロカメットク）にあるだけです。ただし南沼野営指定地、姿見の池避難小屋、前天狗岳には、携帯トイレブースがあります。

黒岳石室のバイオトイレは、利用が多すぎて十分に機能していません。その他のトイレも老朽化が進んでいます。トイレがない避難小屋や野営指定地の周辺では、環境への影響が生じています。



老朽化したヒサゴ沼避難小屋のトイレ棟

## 《荒廃状況》

### ●侵食が拡大し、高山植生が損失

高山帯の自然は脆弱で、大規模な荒廃が生じています。近年、集中豪雨により、侵食が急激に進んだ箇所があります。登山道周辺では、大規模な植生損失も見られます。



急激に侵食が進んだ北海岳北東の登山道

### ●木道や木製階段の破損

木道が老朽化し通行できない箇所、木製階段周辺に侵食が生じている箇所もあります。



流出土砂が植生に堆積した天人峡の登山道

### ●ヤブ化

登山口から遠い区間では、十分な管理が行えないため、ヤブ化してルート不明瞭な箇所があります。



川ようになった裾合平分岐付近の登山道